

に踏下し土壌内1~2cmの深さで越冬する。3月中旬より4月に蛹化する。

5. 成虫の産卵は夕刻より薄暮の間が最も盛で、雌成虫の生存期間は数日間なり。

次に成虫の発生期を対象として、被害林地の地表部にBHC1%粉剤を散布した結果

1. 成虫の発生期を対象とした殺虫剤散布の適期は4月上旬より中旬の中頃
2. 散布量は一町歩当りBHC1%粉剤70~80Kgで適期に散布せる地区は駆除効果80%~100%
3. 駆除費一町歩当り約5,000円を要す。但し兼剤代、人夫賃、燃料代を散布機購入費及び雑費は含まず。
4. 散布に使用せる散布機は共立式背負動力散布機

## 苗畑に於ける根切虫駆除試験(予報)

苗畑に設置せる青色蛍光誘蛾灯によるコガネムシ類の誘引経過

林試熊本支場 小 田 久 五  
倉 永 善太郎

九州管内8管林署所属の苗畑8ヶ所に青色蛍光誘蛾灯を設置し根切虫駆除に必要な資料を得る目的で本年4月1日より11月3日を点灯期間として調査した結果、佐賀、大分、川内の各管林署の苗畑に於ける資料より次の事が判明した。

1. 蛍光灯に惹る主な種類はヒメコガネ、サクラコガネ、ドウガネアイアイ、ヒメサクラコガネ、アカビロウドコガネ等で全面各地で実施している調査結果と時同じである種類の総数は33種で、その中には南系の種類及び種名未定のものも若干あり。
2. 誘致期間は4月上旬~10月下旬で中でも7月下旬~8月下旬の間が最も多い
3. 蛍光灯に誘致出来ない種類としてはマメコガネ他、カナブン類、ハナムクリ類、等で苗畑の周辺に於いて採取出来る。
4. 設置ヶ所の被害発生状況を調査中なるも、根切虫駆除法としての蛍光灯設置の可否については明らかに云えないが、蛍光灯を設置する事により、コガネ虫類の誘致を来し苗畑全体の被害が増加する事は無いものと推定する。

## マツノトビイロカミキリ被害の一調査

長崎縣技師 今 村 正 治  
全 竹 野 忠 生

### 一、調査の目的

所謂松くい虫の中でも最も猛毒と言われている、マツノトビイロカミキリについては時期的の差はあるが、現在行われている剥皮焼却駆除法を駆除した場合枝中に穿入していた幼虫はそのまゝ越冬し翌年成虫となつて飛び出るもののがかなりの数に上ると考へら